



## ●政策科学

2月例会 2月17日(土) 14:00~17:00

場所：三菱総研会議室，出席9名，研究内容：紹介「行動科学の展開・3」（防衛庁空幕・関昭氏）：人的資源開発の基準としての部下の成熟度の高い順に①協力的行動も指示的行動も低い場合＝委認的，②高協労・低指示の場合＝参加的，③高協労・高指示の場合＝説得的，④底協労・高指示の場合＝教示的の4つを設け，前回で紹介したSL理論とマズローの欲求段階説，ハーツバーグの内的動因，マクレガーのX・Y仮説，アージリスの未熟・成熟連続およびA・B行動パターン，リカートの管理システム論，シェインの4種の人間性と管理スタイル，トランザクショナル分析による自我状態，ライフ・ポジション，グリーナーの組織発展段階説との関係を示すなど興味ある材料を提供した。

3月例会 3月17日(土) 14:00~17:00

場所：同上，出席6名，研究内容：紹介・フェスター著「考える，学ぶ，記憶する」（三菱総研・佐野忠男氏）：①記憶は知覚刺激が脳の中で蛋白質に転化され貯蔵されたものだから，この転化所要時間の20分内によく頭に刻みこめば，いつまでも忘れない。②ある芸を学習した鼠の脳をすり潰して他の鼠に注射してやると教えなくとも同じ芸をやる。③人間には幼児環境の影響により見て，聞いて，読んで，触れて，話して憶えるなどいくつかの

型があり，成績がいいのは教師の教え方が本人の型にあっているだけだ，など脳の生化学論を紹介した。

## ●日本のリソースマネジメント（終了報告）

51年度から3年間にわたり，日本におけるリソースマネジメントの本質から問題を掘り下げて研究した。成果としてはきわめて貴重なものが得られた。とくに日本の合理主義の本質とそれがリソースマネジメントに与える影響などは今まで未開発の分野であるだけに注目に値するといえよう。夏頃までに成果をとりまとめることとしたい。最後に，現在の日本におけるリソースマネジメントの狂いを直すにはいかにすべきかという命題にぶつかるが，これは社会システムとの関連を度外視しては考えられないので，54年度以降の「日本における社会システム研究部会」に移換することとした。

## ニューヨーク大停電との関連における 電力事業の経営実証分析

日本のリソースマネジメント研究部会研究の一環として，さきに「ニューヨーク大停電の社会システム分析」を試みましたが，これは経営に焦点を置いて分析したものです。社会システムから電力経営をみたケーススタディとして各部から関心が寄せられています。考え方の問題として，電力経営に関する視点に愁眉を開くものがあったことと，将来のエネルギー不足の事態に，Cost-Effectiveness 最適戦略はいかにあるべきかをアナリスする場合の示唆を与えてくれたことです。資料希望の方にはコピーして送りますからお越ください。

（申込先 (株)小野勝章事務所内 小島光造）

編集後記 ▼今月号の製作をもちまして，新シリーズ第2期の編集委員会はその任務を終え，新委員会（高橋磐郎委員長）にバトンタッチすることになりました。2年間のご愛読・ご支援に心から感謝申し上げます。▼旧委員会最後の特集ということで，今月号のテーマはストッ

ピング・ルールとしました。ただし，読者の皆様方におかれましては，本誌のご購読をストップせず，継続なされるのが最適な政策であると信じておりますので，今後ともよろしくお願い致します。（F）

# オペレーションズ・リサーチ

昭和54年6月号 第24巻（新シリーズ第4巻）6号 通巻222号  
代表者 小林宏治  
発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
（電話 03-815-3351~2）☎ 113  
編集人 高橋磐郎  
発売所 株式会社 日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円（郵送料含）年間予約購読料 7200円（郵送料含）

本誌への広告お申し込みは日経弘報社（563-2241），明報社（571-2548）へ